

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2002. 7

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 219

日本野鳥の会 埼玉県支部

埼玉県大久保農耕地におけるシギ・チドリ類の調査報告

1985年から2001年の支部調査のまとめ

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

はじめに

財日本野鳥の会は、1973年9月から1985年4月までの12年間、全国の会員や団体に呼びかけて、4月29日と9月15日を中心にシギ・チドリ類の全国一斉調査を実施していた。その調査に支部として参加したのが、始まりである。

全国一斉調査が終わっても、さいたま市の荒川沿いに広がる大久保農耕地は、ムナグロの重要な渡来地であることから、当支部は独自に調査を継続し、今日に至っている。

独自に行うようになってからも、データを継続したいと考え、4月29日と9月15日を中心として調査を行っている。

調査地

調査地である大久保農耕地は、さいたま市

の荒川河川敷左岸堤防内外に位置しており、調査地全体の面積は約300haである(図1)。

当地は水田地帯であり、一部の地区(B区)を除いて整備が終了し、農道、コンクリート製のU字型用水路、排水路が整備され、刈り取り後は乾燥した状態になっている。

調査地で大きく環境が変わったところは、通称B区と呼ばれている地点である。

1987年ごろから北側一帯の埋め立てが始まり、1989年4月に荒川総合運動公園が完成した(埼玉大学野鳥研究会1992)。

調査方法

調査は大久保農耕地を4区(埼玉大学野鳥研究会が区分しているA・B・As・A'区)に分け、A・B区は徒歩で、As・A'区は自動車を使い調査している(図1)。As区・A'区と

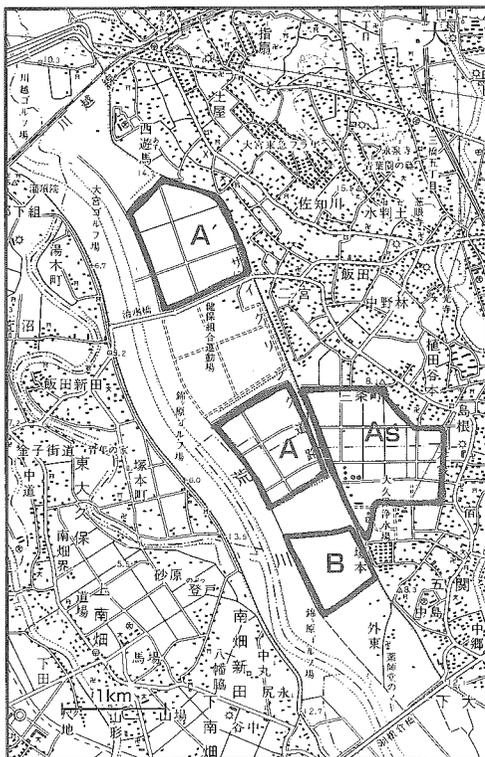


図1 (S55修正)

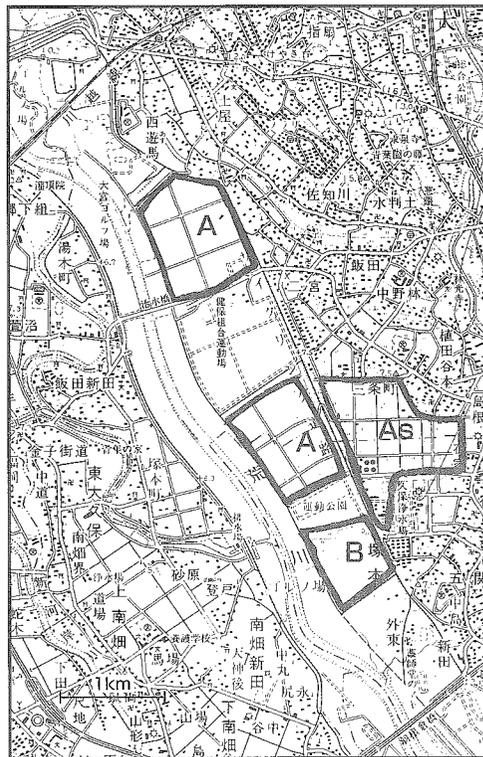


図1 (H7修正)

表1 シギ・チドリ類 カウント結果 (大久保農耕他)

年	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	合計																	
調査日	4.29/9.15	4.29/9.15	4.29/9.15	4.29/9.15	4.29/9.15	4.29/9.15	4.29/9.16	4.29/9.15	4.29/9.15	4.29/9.15	4.29/9.15	4.29/9.15	4.29/9.15	4.29/9.15	4.29/9.15	4.29/9.15	4.29/9.15																		
天候			晴れ	晴れ	雨	曇り	晴れ	晴れ	曇り	雨	雨	雨	晴れ	曇り	晴れ	曇り	晴れ	曇り																	
11 タマシギ						2		1										3																	
2 コチドリ	○	○	○	5	1	26	2	1	1	4			11	7	1	1		83																	
3 シロチドリ							1	2		2					13	1	2	5																	
4 ムナグロ	○	○	○	400	179	444	112	488	4	624	52	474	142	386	10	381	24	277	74	127	21	534	3	178	203	143	155	130	105	115	304	6089			
5 ケリ		○				2																											2		
6 キョウジョシギ		○		3		7		2		2																							2		
7 トウネン		○						1		2																							2		
8 ヒバリシギ						1																											5		
9 7月羽成済			○																														*		
10 ウズラシギ	○	○		2			2			1	1																						6		
11 ハマシギ	○	○		2			10		30				24											9									76		
12 エリマキシギ																										1							2	3	
13 アオアシシギ								4				2	1	7		3																	7	24	
14 クサシギ	○	○		1		1					1																						1	5	
15 タカアシシギ	○	○	○	50	36	52	15	68		16	12	4	17	6		6		13		25		5											338		
16 キアシシギ	○			2						3																								8	
17 イソシギ	○	○	○	2				1					5																					11	
18 オグロシギ										1																								1	
19 ホウロクシギ		○																																1	
20 チュウシャクシギ		○	○	12		6		7		8		3		1	13		12		11		3													108	
21 コシヤクシギ																																		7	
22 タシギ	○	○	○	14	28	30	72	39	38	11	20	43	185	36		21	80	10	19	26	11	12	1	3	51	6	24	3		3			788		
23 オオシギ			○																																3
シギ s.p.	○	○	○	1	2	1	1							8	3		2		1	2	2			2									23		
24 7月羽成済	○				1								9																					*	
25 ツバメチドリ	○																																	10	
チドリ s.p.																																		*	
シギ s.p.																																		1	
合計				493	247	542	230	624	42	701	86	528	374	443	10	454	107	319	107	199	33	564	7	191	275	158	189	153	108	139	1	315	0	7639	

- は正確な個体数の記録はないが、カウントの時に確認された種類である。
- 合計の間の※は、正確な個体数の記録はないが、確認された種類である。

もカウントをする時は自動車から降りている。

各地区とも3～5人で担当し、7～12倍の双眼鏡、20～40倍の地上望遠鏡を用い、種類を識別しカウントをしている。ただし、A区は広いので2～3の小さな地区に分けている。

また、ダブルカウントを防ぐため、終了時刻を決め、最後は全員が集まり情報を交換している。

調査結果

今までのカウント結果(表1)から、ムナグロ・タカアシシギ・タシギの3種で全個体数の94%を占めるので、その3種をグラフにまとめた。

(1) 春の結果

ムナグロの春の渡りは3期に分けることができ、4月20日ごろから5月15日ごろまでが、渡来最盛期である(渡辺 1991)。当支部が行っている4月29日はその最盛期にあたる。

しかし、近年はムナグロを含めた3種類の渡来数は、確実に減ってきている(図2)。とくに5年ごとムナグロの平均をだしてみると、その結果がよりはっきりする(図4)。

(2) 秋の結果

ムナグロの秋の渡りは春とは異なり5期に分けることができ、9月中旬～20日すぎまでが成鳥渡去・幼鳥渡来期であり、渡来数はばらつきがある(渡辺 1991)。当支部が行っている9月15日ごろはこの時期にあたる。

春に比べると渡来数は少なく、数にもばらつきがある(図3)。5年ごとのムナグロ平均をだしてみても、その様子がわかる(図4)。

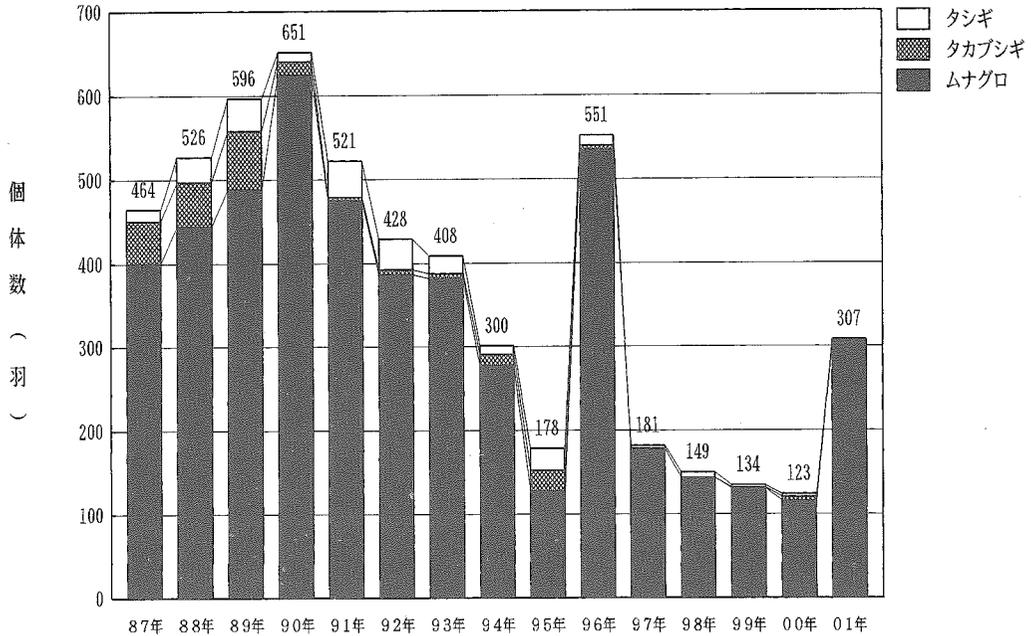
特徴および考察

日本列島で繁殖や越冬をしないムナグロにとって、通過・滞在する場所は、特に採食に適した環境でなければならない(渡辺 2001)。ムナグロなどのシギ・チドリ類が通過する春と秋は農作業が行われ、水田の環境が大きく変わる時期である。

調査結果から、水がない状態の水田ではシギ・チドリ類はあまり観察されず、水が入ると観察される傾向があり、農作業は採食と関係があると思われる。

また、台風などの影響で河川敷が冠水した後は、シギ・チドリ類はほとんど観察されな

図2 春のカウント



かったり、雨の時にはA区のグラウンドなどでムナグロが多数観察されたりするなど、天候による変化も大きな影響があると思われる。

当支部が行っている調査は、春と秋の渡りの時期の1日だけである(表1)。したがって、調査日の前後には観察されていたシギ・チドリ類が、調査日にはあまり観察されなかった年もあり、渡りのピークにあたっていない可能性もある。

おわりに

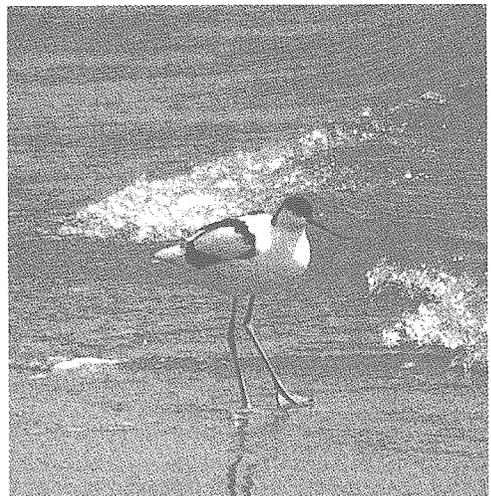
春と秋の1回ずつの調査でも継続して行くと、環境を含めて様々な変化がわかり、改めて継続調査の重要性を認識した。

地図(図1)は、国土地理院発行の1:50,000の地形図(大宮)の昭和55年修正と平成7年修正を使用した。

最後になりましたが、本稿をまとめるにあたり、今まで調査していただいた会員の皆様、資料を提供していただいた渡辺朝一氏、埼玉大学野鳥研究会に紙面をお借りして謝意を表します。
(石井智、小荷田行男)

引用文献

- ・埼玉大学野鳥研究会 1992
鳥類観察報告10
- ・渡辺朝一 1991
埼玉県大久保農耕地におけるムナグロの渡来状況 Strix Vol.10
- ・渡辺朝一 2001
春期の水田におけるムナグロの採食地選択 Strix Vol.19



ソリハシセイタカシギ 波崎海岸(松村禎夫)

図3 秋のカウント

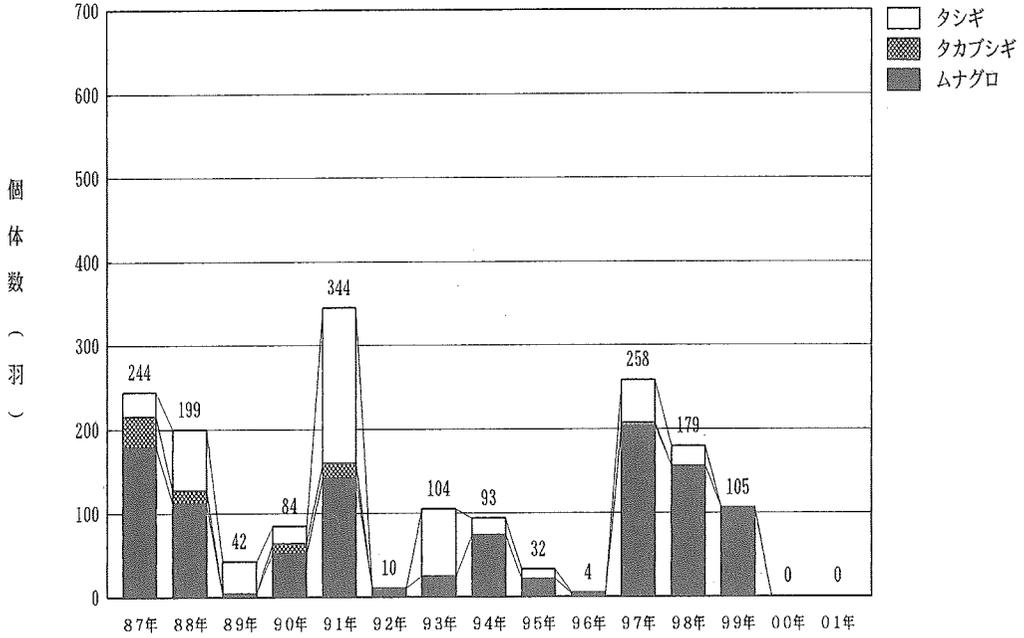
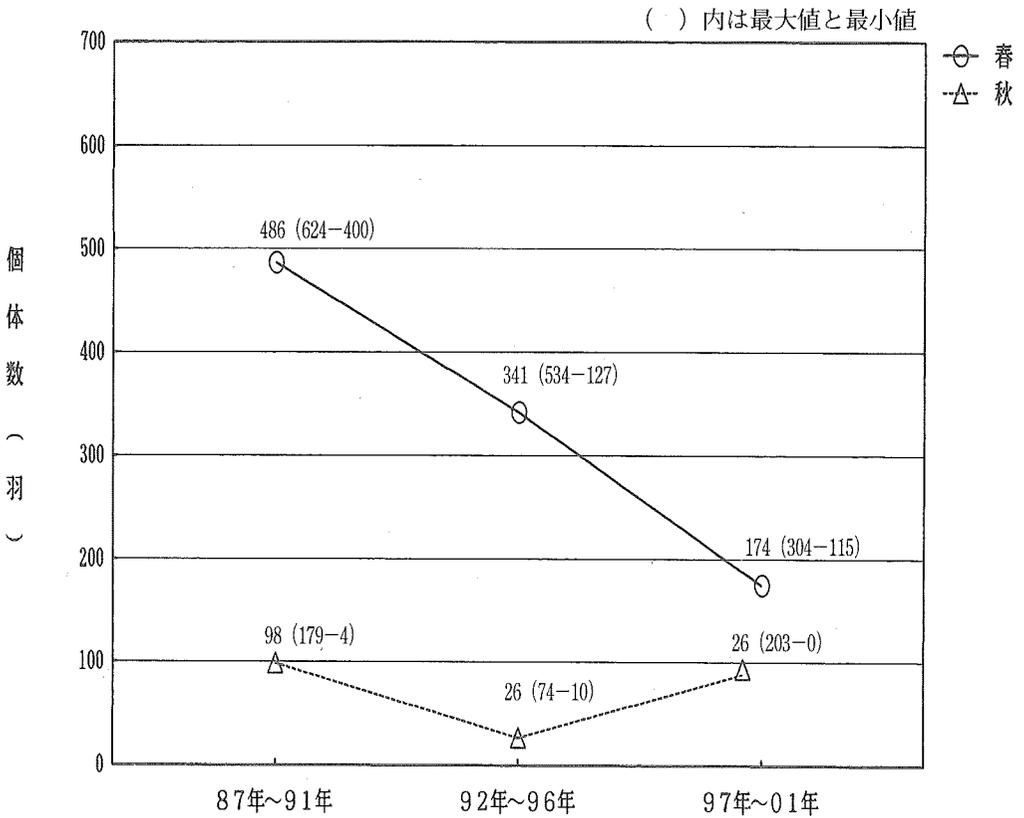


図4 5年ごとのムナグロの平均



鷹の幼鳥を救出

幕内史子 (川越市)

4月24日川越から夫とふたり、車で秩父方面に出かけ、途中で数年ぶりに正丸峠へ上ってゆくことになった。

七曲りにカーブを上へ上へとあがり、峠近くに出た所で鷹を発見した。10m余りの崖に落石防止のネットが張ってあるのだが、そのすき間に落ちてしまったのだ。上は新緑の雑木林、そこから転落したらしい。夫とふたりで救出作戦。車からシャベルを取り出し、積もった落ち葉を取り除き、ネットの下のすき間からタオルにくるんで鷹をひっぱり出した。鋭い爪、目も精悍。くちばしは黄色が残る。そっと草の上においてやると、正気に返ったらしく、さっと飛んで森の中に消えた。

デジカメを持っていたのに記録に残す余裕がなくて、後の祭り。調べてみると、どうやらオオタカの幼鳥らしい。

出逢い

陶山和良 (さいたま市)

一昨年白馬山麓で出逢った長野在住の老夫婦より「今の妙高高原は素晴らしいですよ。」との電話を受け、晩春の妙高へ出かけた。

翌朝4時半に目覚め、宿をそーっと抜け出すと、ノジコとオオヨシキリ、キビタキの三重唱が聴こえ、合間にカッコウのアクセントが入った大自然のコーラスが身を震わせる。新緑の木々に囲まれたいもり池に映った逆さ妙高の姿が美しい。ひんやりとした池畔を歩いていると、熱心にメモを取っている一人の初老のバーダーに出逢った。「おはようございます。野鳥たちの囀りが素晴らしいですね。」「はい。今年はキビタキが多いのですが、妙高の主演はノジコですよ。私の今日のターゲットは車で20分程先にある笹ヶ峰のイスカですが。」「えーっ。イスカですか。」「よろしかったら、ご一緒しませんか。」「願ってもないこと。」「8時スタートの約束で同行することになった。

笹ヶ峰に近づくとダークグリーンのドイツ唐松と黄緑色の唐松の色が美しい混林が目前に広がっている。イスカはドイツ唐松の実を食べに来ているとのこと。車から降りて林に入るや否や「あれがイスカの声です。」言い終わらないうちに20羽ほどの群れが飛来。頭

上の30m位の樹上で、細長い垂れ下がった唐松の実を真逆さになりながら、盛んに啄ばみ始める。褐朱赤色の雄、黄緑色の雌も手にとるように見える。嘴の曲がり、食い違いも右か左かと言いながら、首が痛くなるのも忘れて、感動の深い息を何度も吐きながら必死でスコープをのぞく。

何とも言いようのない幸運な朝の出逢いであった。目の前の樹上で静止しているツツドリ、アオゲラ、アカハラ。おまけに車の窓の5センチ程の間からキビタキが飛び込んでくるハプニングもあり、大きな大きな喜びを胸に、出逢いの素晴らしさを感じて宿に帰った。時計は正午を廻っていた。

ホトトギスの聞きなし

内藤義雄 (鴻巣市)

名は知らないが、「小鳥の森」からさほど遠くない丘陵を歩いていると「キョッキョッキョッキョッキョ」と繰り返すホトトギスの声、目に青葉の山から聞こえてきた。気分そう快になった5月19日の福島市でのことである。

「特許許可局って聞こえるだろ」とかたわらの同窓の旧友に話をした。20日には自分の町の公園でカッコウの声。23日には自宅のそばのヒマラヤ杉の頂に鳴く姿。翌日に『しらこぼと』6月号が届いて、岡安氏の寄稿、「石戸宿風信」は小説『不如帰』に触れている。声を聞いたばかりだったので、なぜホトトギスが不如帰（フジョキ：帰ったほうがよい）などとされているのか。ホトトギスは古来、日本にまだ文字の伝来のない時代から声が転じてそのまま鳥名となっていたから、万葉集に「保止止支須」とよまれているのにと、改めてなぜと思ったのである。また、ご承知のように数多くの異称をもつ鳥でもある。江戸時代の俳句にも夏の季語として、不如帰の異称を含めて各様によまれている。これは漢詩を下敷きにしての言葉ではないかと思い、「不如帰」を中国語で知人に読んで貰うと、「プールウクィ」と私には聞こえた。現代の音と過去の唐音や漢音との違いは当然あるとしても、「プールウクィ」の音感に驚きを感じつつ推量で、ある時に聞きなしで「不如帰」と表現されていたのではなどと、考えを巡らしてみた。皆さんはどう思いますか。



蓮田市黒浜 ◇4月10日午後2時頃、国立東埼玉病院内の林でマヒワ約5羽、ビンズイ3羽、アカハラとシロハラの混群約10羽、その他シメ、カケスと冬鳥ばかり見ていたら、上空をサシバが舞ってくれた。4月11日午後3時過ぎ、同所でクヌギの新芽をついばむマヒワ約20羽を見ていたら、さらにアトリ5羽が加わった。4月19日午後1時頃、同所でクヌギの木でアトリ2羽。別の所でビンズイ1羽。さらにヤマシギが林床から飛び出し、枝に翼をぶつけながら頭上を飛んでいった(鈴木紀雄)。

幸手市神明 ◇4月14日、田んぼでムナグロ8羽。5月1日、田んぼでムナグロ81羽(秋間利夫)。

幸手市木立 ◇4月27日、中川でオオヨシキリ1羽(秋間利夫)。

春日部市内牧 ◇4月17日午前9時頃、オオタカ成鳥1羽。頭部が真っ黒になったカシラダカ3羽(鈴木紀雄)。

岩槻市文化公園 ◇4月19日午後8時頃、コムクドリ♂2羽♀2羽が樹木の新芽で何かをけんめいに食べていた。久しぶりのコムクドリはやはり美しかった。4月22日午後12時30分頃、樹木の茂る中で「クルルル」と鳴きキビタキ♂1羽。眉斑、喉の黄色が鮮やか。小声でぐずっていた(鈴木紀雄)。

杉戸町大島新田 ◇4月29日、大島新田貯水池でコアジサシ6羽(秋間利夫)。

志木市下宗岡 ◇4月16日午後2時頃、荒川沿いの水の入り始めた水田でムナグロ約50羽。2日前には、ツバメチドリがいたとのことでした(鈴木紀雄)。

さいたま市秋ヶ瀬公園 ◇5月5日午後12時～1時30分、子供の森でミゾゴイ1羽。友人と二人で確認しました。プロミナーに入れて、お腹の柄、肩羽の色、柄をしっかりと見ることができて、満足しました(藤澤洋子)。

狭山市智光山公園 ◇4月20日午前11時、マヒワ100羽以上、こども動物園脇の林の小川で水浴中。マヒワに取り囲まれた感あり。また、イカルも10羽ほど(久保田忠資)。

入間市宮寺 ◇4月20日午前11時15分、緑の森博物館の奥の林でコマドリのさえずり。金堀沢でキビタキ、ヤブサメ、センダイムシクイのさえずり(石光章・治美)。

東秩父村二本木峠 ◇4月20日、センダイムシクイ2羽、コサメビタキ約10羽、オオルリ♂2羽、クロツグミ♀1羽、マヒワ約50羽、ビンズイ、アオゲラ、アカゲラ、ヤマガラ、ヒガラ、シメ、カケス、トビ他計21種。オオルリは2羽とも全くさえずらなかつた(後藤康夫)。

嵐山町花見台 ◇5月1日午後2時15分頃、空き地と民家との境でサシバ1羽が地上から杉の枝へ。体上面の色彩で一瞬トビかと思っただが、目、嘴、脚の黄色が鮮やか。喉の黒線も確認できたが、眉斑は不明瞭。獲物をくわえたまま飛び去った(鈴木敬)。

横瀬町県民の森 ◇5月4日、集合時間の9時45分より30分ほど早く到着したのが幸運で、時間待ちの間にアカショウビンの声を5回連続で聞いた。コルリやオオルリ、キビタキ、センダイムシクイ、アカゲラ、アオゲラは新芽が伸び始めた今は声はすれども姿は見えず。頭のすぐ上でツツドリが鳴き始め、必死に探したがこれもだめ。でも十分堪能できた一日でした(池内輝明)。

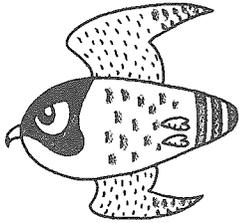
表紙の写真

カッコウ(カッコウ目カッコウ科カッコウ属)

鳥友Y氏は、「カッ」は嘴を開け、「コウ」は嘴を閉じて鳴く、「コウ」の音はツツドリの声にも似て響く、と目を細める。私は、「カッ」で嘴をパクッと開け閉めし、「コウ」は嘴を閉じたまま、それぞれの音で、のどが膨らみ、また平らになる、この繰り返しのリズムが、ちょっと違う、と言う。杯を交わしながら、それぞれのささやかな観察結果を交換する。

写真と文・海老原美夫(さいたま市)

行事あんない



(何森 要)

「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちがあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般 100 円、会員と中学生以下は 50 円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後 1 時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集合場所までお出でください。

群馬県板倉町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：7月7日（日）

集合：午前 8 時 15 分、東武日光線板倉東洋大前駅。または午前 8 時 30 分、板倉町総合運動場入口。

交通：東武日光線新越谷 7:15→春日部 7:29→栗橋 7:54→板倉東洋大前 8:06 着。

JR 宇都宮線浦和 7:01→大宮 7:08→栗橋 7:43 着にて東武日光線乗り換え。

解散：午前 11 時 30 分ごろ、アシ原浄化ゾーンにて。

担当：橋口、伊藤（隆）、内田、四分一、田邊、玉井、田村、中里、

見どころ：夏の恒例、アシ原浄化ゾーンで湿地の鳥オオヨシキリ、コヨシキリ、セッカ、ヨシゴイ、ササゴイなどを堪能します。カッコウは数が減っていますが、托卵を狙ってきているかもしれません。暑さ対策と飲み物をお忘れなく。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月7日（日）

集合：午前 9 時 30 分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:11 発、または寄居 8:49 発に乗車。

担当：島田、森本、倉崎、高橋、後藤、藤田、栗原、大澤

見どころ：梅雨が明けるとサウナ風呂並みに

暑い大麻生。でも、バン、カイツブリ、ササゴイなどのファミリーは暑さに負けずにがんばっています。彼らからエネルギーをもらい、英気を養いましょう。帽子、飲み物は忘れずに。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：7月14日（日）

集合：午前 9 時 40 分、森林公園南入り口前。

交通：東武東上線川越 8:37 発にて森林公園駅下車、森林公園南口行き 9:17 発バスにて終点下車。

費用：入園料 400 円（子供 80 円）

担当：佐久間、内藤、藤掛、岡安、青山、喜多、後藤、山田（義）

見どころ：蒸し暑い時季になってきました。シジュウカラ、ホオジロ、ホトトギスの声。もしかするとカイツブリのヒナなどが楽しめそう。国蝶のオオムラサキ、暑くなるのが早かったのでヤマユリにも期待がもてそうです。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：7月20日（土）午後 1 時～2 時ころ

会場：支部事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：7月21日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺(周)、若林、兼元、森(力)、小菅、新部

見どころ：梅雨も明けて夏休み。鳥たちも夏休みか。見沼たんぼの向こうに見えるサッカー場もW杯のにぎやかさを終えて静まっている。暑さに負けずに見沼を歩き、鳥たちと楽しんでみよう。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：7月28日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:43発、所沢8:36発に乗車。

担当：長谷部、高草木、藤掛、中村(祐)、山本(真)、久保田、山本(義)、石光、山田(義)

見どころ：真夏の日差しにめげることなくさえずるセッカやホオジロ。河原の草はいよいよ繁茂して緑一色。汗をかきたい人大歓迎です。炎天下の河原は日陰が少ないので、帽子、飲み物は必携です。

野鳥記録委員会の情報

日本野鳥の会埼玉県支部 野鳥記録委員会

●ハイイロヒレアシシギ

学名 *Phalalopus fulicarius*

英名 Grey Phalarope (英)

Red Phalarope (米)

分類 チドリ目ヒレアシシギ科ヒレアシシギ属

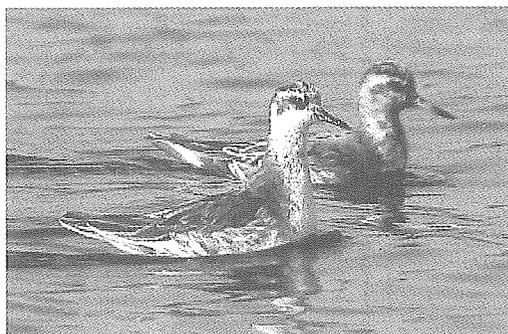
2002年4月28日(日)戸田市彩湖の南端近くの水面を泳ぐ2羽を倉林宗太郎(さいたま市)が発見。翌29日(月)海老原美夫(さいたま市)がビデオ撮影(右写真)した。

1羽(写真奥)は夏羽への換羽がかなり進み全体に赤色が多くなっていたが、もう1羽(写真手前)はまだほとんど冬羽の灰色のまま。水面をくるくると忙しく泳ぎながら、岸辺近くの水面に落ちた小さな虫を採餌していた。護岸に上がって休息した時に、近距離からヒレアシの状況を観察したものもいる。

30日には見られなかった。

本種に関して残っている過去の記録は、

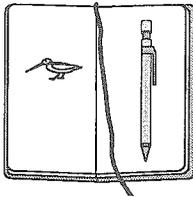
1, 1976年4月25日と5月5日に浦和市(現さいたま市)秋ヶ瀬の池で1羽が観察され



た。(写真なし。埼玉県動物誌)

- 2, 1990年12月1日、越谷市内で保護された後死亡。剥製にされて市内の児童館に展示されていたものを、当委員会が本種として県内で初めて確認、記録した。(剥製の写真あり。本誌1996年7月第147号)
- 3, 1998年4月15日、利根大堰で4羽観察された。(写真なし。本誌1998年6月第170号)

今回は県内の確認記録としては2例目、生きている状態で観察、写真撮影されたものとしては、初めての例である。



行事報告

2月23日(土) 上尾市 丸山公園

参加: 33人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ マガモ カルガモ
 コガモ トビ ハヤブサ チョウゲンボウ コジ
 ユケイ キジ キジバト トラフズク カワセミ
 アカゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセ
 キレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョ
 ウビタキ トラツグミ ツグミ ヤマガラ シジ
 ユウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオ
 ジ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス
 ハシブトガラス (36種) 頭上のシメを眺めながら
 スタートするが、北風の冷たさが身にしみる。物
 静かな林を抜けて中央の断崖の小池でヤマガラ、
 ジョウビタキに会う頃から暖かくなった。公園を
 出てからヨシの中にカシラダカの群れ、道の反対
 側の竹やぶにびっくり何とトラツグミが出た。河
 川敷ではハヤブサとカラス数羽による大空中戦を
 楽しませてもらった。恒例のトラフズクに会って、
 公園に戻ってカワセミに会う。(大坂幸男)

2月23日(土) 東京都 上野公園不忍池

参加: 13人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ アオサギ マガ
 モ カルガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビ
 ロガモ ホシハジロ キンクロハジロ パン オ
 オバン ユリカモメ セグロカモメ ウミネコ
 キジバト ハクセキレイ ヒヨドリ ウグイス
 シジュウカラ メジロ カワラヒワ スズメ ム
 クドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (27
 種) 初めての〈ぬり絵探鳥会〉。足元まで近寄つて
 くるカモを見ながら、もしかしたら何十年かぶりの
 のぬり絵を楽しんだ。「オナガガモの脇腹の小紋が
 上品だ」「あのような小紋を鯨小紋というのかしら」
 などの会話もあって、教養あふれる探鳥会と
 なった。(山部直喜)

2月24日(日) 深谷市 仙元山公園

参加: 71人 天気: 快晴

コサギ カルガモ チョウゲンボウ コジユケイ
 キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ キセキ
 レイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ
 ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ ツ
 グミ キクイタダキ ヒガラ ヤマガラ シジュ
 ウカラ メジロ マヒワ シメ スズメ ムクド
 リ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス
 (29種) 数日前の強風で鳥の数が激減という連絡
 を受け心配していたが、当日は唐沢川でカワセミ
 4羽、仙元山ではビンズイの群れ、ヤマガラの群
 れ、数年ぶりのキクイタダキに初認のマヒワなど、
 かなりの賑わいをみせた。(小池一男)

2月24日(日) 岩槻市 岩槻文化公園

参加: 57人 天気: 晴

カイツブリ カワウ カルガモ コガモ ヒドリ
 ガモ オナガガモ コジユケイ クイナ セグロ
 カモメ キジバト アカゲラ コゲラ ハクセキ
 レイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シロハ
 ラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ
 ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シ
 メ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス
 ハシブトガラス (31種) 出発後間もなく、村国池
 の所ではシロハラが、続いてカケス、カシラダカ、
 シメ、アカハラ、コジユケイ等が次々に出現して
 皆を喜ばせ、離れがたい様子だった。また、アシ
 原では、数名だがクイナまで見ることができた。
 早朝の下見で多数いたカモ類は数が少なく、ちょ
 っと残念な気がした。(中村榮男)

2月24日(日) 富士見市 柳瀬川

参加: 39人 天気: 曇後晴

カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ
 ヒドリガモ オナガガモ キジ イカルチドリ
 イソシギ タシギ チョウゲンボウ セグロカモ
 メ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセ
 キレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバ
 リ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ メ

ジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラ
ヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス
ハシブトガラス (35種) 寒い北風の中、駅前を出
発。最初にスコープに飛び込み旅立ちを見送るは
ずのタゲリは見当たらない。数が少ないカモ類や
キジ、シメ等を見ていると空も晴れて日溜まりへ
移動。中州にはタシギたちが待っていた。抽選会
もあり、ホットな気分で終了。(高草木泰行)

3月3日(日) 寄居町 玉淀河原

参加: 73人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ マガモ カルガ
モ コガモ トビ オオタカ ノスリ チョウゲ
ンボウ イカルチドリ クサシギ イソシギ キ
ジバト カワセミ アオゲラ アカゲラ コゲラ
キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒ
ヨドリ モズ ツグミ ウグイス エナガ シジ
ュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオ
ジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナ
ガ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 参
加者の多さに先ずは驚いたが、新聞に探鳥会案内
が掲載されたらしい。観察できた野鳥の種類は多
かったが、期待のヤマセミは不在だった。アフター
で希望者にカタクリの咲く場所とヤマセミが立
ち寄る他の場所を案内した。(小池一男)

3月3日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 56人 天気: 曇

カイツブリ カワウ マガモ カルガモ コガモ
ノスリ コジュケイ キジ クイナ バン オオ
バン タシギ キジバト アカゲラ コゲラ ハ
クセキレイ ヒヨドリ モズ アカハラ シロハ
ラ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ
カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ
シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシ
ボソガラス ハシブトガラス (35種) 出発してす
ぐに、芦原でノスリを間近に見ることが出来て感
激。同時にオオジュリン等のホオジロ類その他が
数多く登場して楽しめた。林の方に移動したら鳥
が居らず、リーダーは困ってしまったが、芦原に
戻るとノスリが再出演してくれた上にアカゲラも
出て盛り上がり終了出来た。(玉井正晴)

3月9日(土) 加須市 はなさき公園

参加: 24人 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ
コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ
ハシビロガモ オオタカ ノスリ バン シラコ
バト キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレ
イ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ
シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ
アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ
シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシ
ブトガラス (35種) 春の兆しを思わせる穏やかな
天気の中でのスタート。池では、ハシビロガモ、
ヒドリガモなどを観察する。順光で見ると艶やか
な色彩は何度見ても飽きない。植物園では、ベニ
マシコが出て楽しませてくれた。オオジュリンは
早くも夏羽になりかけていた。最後にノスリが舞
った。(中里裕一)

3月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 40人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ コハ
クチョウ マガモ カルガモ コガモ オナガガ
モ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ
トビ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ コジ
ュケイ キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ
ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨ
ドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス
エナガ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ
アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ
ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) ポカポ
カ陽気の中でスタートした。踏み切りを越えると
ホオジロがさえずって私たちを迎えてくれた。S
Lを見ながら土手をゆっくり歩いてゆく。上空を
オオタカが舞う。途中、荒川の縁まで行ってみた。
アオサギ、ダイサギが羽を休めていた。和気藹々
ののんびり探鳥会だった。(中里裕一)



チョウサギ (蟹瀬武男)

連絡帳

●本部事務局の組織が変わりました

初台本部事務所 (〒151-0061 渋谷区初台 1-47-1 小田急西新宿ビル 1F)

会員室 会員グループ

03-5358-3510・03-5358-3511

野鳥誌グループ 03-5358-3512

総務室 総務グループ 03-5358-3513

経理グループ 03-5358-3514

普及室 普及教育グループ 03-5358-3516

人材育成グループ 03-5358-3516

販売出版グループ 03-5358-3519

サンクチュアリ室 03-5358-3517

自然保護室 種・法制度グループ

03-5358-3518

以上各室への FAX 03-5358-3608

通信販売受付専用 03-5358-3515

通信販売受付専用 FAX 03-5358-3609

バードショップ専用 03-5358-3584

鳥と緑の国際センター (〒191-0041 日野市南

平 2-35-2) 自然保護室 情報調査グループ・

生息地保全グループ 0425-93-6871

FAX 0425-93-6873

●今年度最初の理事会開催

5月27日(月)午後1時30分から、都内新宿区で今年度最初の理事会が開催され、当支部からは、楠見邦博理事と海老原美夫本部監事が出席、新年度役員、13年度決算報告事業報告を中心に、熱心な議論がかわされました。

新年度役員 会長：小杉隆 専務理事：小林料 常務理事：久保田美文・沢島武徳・鈴木正男・林吉彦 監事：海老原美夫・後藤康男・下池和善

●会員の普及活動

5月1日(水)三郷市立幸房小学校で開催された市内の小中学校環境教育担当者29名に対

する自然観察指導法の指導会、5月9日(木)みさと市立さつき小学校6年生の総合的な学習「三郷の自然」、5月22日(水)八潮市立松之木小学校5年生の総合的な学習「身近な野鳥」、5月30日(木)越谷市立蒲生小学校3年生の総合的な学習「越谷の特色」で、山部直喜が指導しました。

●7月の事務局 土曜と日曜の予定

6日(土) 8月号編集作業。研究部会議。

13日(土) 8月号校正。

20日(土) 8月号袋づめの会。

21日(日) 役員会。

●会員数は

6月1日現在2,687人です。

活動報告

5月11日(土)校正作業(海老原美夫、大坂幸男、藤掛保司、山田義郎)。

5月13日(月)本部の監査を実施。5月15日(水)と5月27日(月)本部常務会に出席(海老原)。

5月19日(日)役員会議(司会：大坂幸男、各部の報告・総会準備・新役員候補に関する話し合い・その他)。

5月20日(月)支部報のみ会員宛て6月号発送(倉林宗太郎)。

編集後記

支部会員の富士鷹なすびさんが、「6月号のカットは昔の本ですネ。なつかしい。新しい『なすびの野鳥図鑑』もカットに使ってください」と、送ってくださった。相変わらず楽しいイラストがいっぱい。

600円+送料です。

しらこぼと 2002年7月号(第219号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒336-0012 さいたま市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載

は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。印刷 関東図書株式会社